明徳義塾中学校・高等学校

新シリーズ：「International Boarding School」で学ぶ　第７回

日本語を学ぶ目的、日本語コースの役割

広報入試部長　高橋 聖

第二言語としての日本語教育を実施している明徳義塾には、海外子女（帰国生・留学生）は勿論、在日外国人子女も入学して来ます。今回は、彼らが明徳義塾で日本語を学ぶ目的を紹介することで、日本語コースの役割についても今一度確認したいと思います。

北米からの高校１年間留学生・帰国生

明徳義塾では 2010 年度より北米からの1年間留学生・帰国生の受け入れをスタートし、 初年度は3名の生徒がこのプログラムに参加してくれました。 後に紹介する留学プログラムとは異なり、 このプログラムに参加する生徒は1年間の留学が終了すると元の高校に復帰し、 北米の大学に進学する事を想定しています。 参加者は日本とアメリカのダブル国籍を持つ生徒、アメリカの国籍のみを持つ生徒など様々です。 彼らの日本語を学ぶ目的は多様ですが、 家庭が日本語の会話をする環境にある場合、 日本にいる親せきを含め、 家族間における日本語でのコミュニケーションをより豊かに、 より充実したものとすることが、 第一の目的となっています。

もちろん、 同世代の日本人の友達や年上（目上）の先生と１年間寮生活を共にし、 クラスでの活動は勿論、 日々のクラブ活動を通じて自然とバイカルチャー（会話だけでなく読み書きの出来る日本語レベル＋日本の生活習慣を含む文化を理解している）に近付くことが、 帰国後の大学進学、 そして就職に有利に働くことは言うまでもありません。

さて、 このプログラムにはアニメやゲームなど日本のサブカルチャーに憧れて日本語を学ぶ生徒もいます。 アニメやゲームを翻訳された英語では無く、 原語の日本語で楽しむことが出来たらどんなに楽しいことでしょうか。 私がハリウッド映画や洋楽を英語で直接楽しみたいと思う気持ちと同じだと思います。

今後は日本語だけでなく、空手、剣道、柔道、合気道など、日本ならではのスポーツや、 北米でも人気の和太鼓を、 本格的に体験するための道具として日本語を学ぶ生徒も誕生してくると思います。

高校3年間正規留学生・帰国生

北米からの１年間留学生とは異なり、 3年間正規留学生、そして日本国籍を持つ帰国生が日本語を第二言語として学ぶ第一の目的は、 日本の大学への進学、 そして高度な日本語と専門知識を活かしての就職ではないでしょうか。

現在、 明徳義塾ではアジアからの生徒を中心とし、 北米からも3年間正規留学生と帰国生を日本語コースで受け入れています。

ところで、 帰国生には留学生には無い、 帰国生ならではの日本語を学ぶ目的もあります。 それは、 北米からの1年間留学生の日本語を学ぶ目的と同様、 家族間における日本語でのコミュニケーションをより豊かに、 より充実したものとすることが含まれています。 帰国生の中には、 保護者に日本語が母語であるものがいるにも関わらず、 家庭内において日本語を殆ど

英語劇：アメリカ･韓国･台湾･中国･日本国籍の生徒が共演

和太鼓：アメリカ･オーストラリア･中国･韓国･日本国籍の生徒が演奏